

R7.2.21 令和6年度研修講座「教員ReStart支援講座」

群馬県教育ビジョンと 自律した学習者の育成について

群馬県教育ビジョン（第4期群馬県教育振興基本計画）

✓ 群馬県教育ビジョン

- 教育基本法第17条第2項に基づく、総合的かつ計画的に教育施策を推進するための基本的な計画
- 群馬県行政の教育分野における最上位計画
- 2024年度から2028年度までの群馬県における教育施策の理念と方向性を示す



群馬県の教育分野に関連する基本計画

新・群馬県総合計画 県行政の全般に係る最上位計画



- ✓ 「始動人」の育成
- ✓ 「教育イノベーション」の推進

教育分野の 最上位計画

群馬県教育ビジョン (第4期群馬県教育 振興基本計画)



第2期群馬県 教育大綱 知事と教育委員会で 定める教育の方針

群馬県教育ビジョン策定の基本的な考え方 ①

◆県政運営の基本方針「新・群馬県総合計画」に基づくもの

- 県総合計画が目指す教育像:「始動人」の育成

「始動人」とは、群馬県が定義した言葉で「自分の頭で考え、他人の目指さない領域で動き出す人」です。いわゆる従来の日本教育が理想としてきた画一的な「優等生」ではなく、学力だけでない群馬の教育が理想とする「個性」として、次のような力を持った人としています。

■自分の頭で未来を考える力 ■動き出す力 ■生き抜く力

- 教育ビジョンでは、この「始動人」の概念を核として、より拡張した概念として、最上位目標に「**エージェンシー**」という言葉掲げます。
- これは、人は生まれながらに自分と社会をより良くしようとする意志を持っていることを表すものであり、**上記の「始動人」の考え方に、自分と他者を尊重すること、社会課題を自分事化すること、創造的な対話により問題の解決を図ろうとすること等の要素を加えて、群馬県で再定義したものです。**

群馬県教育ビジョン策定の基本的な考え方 ②

◆今後5年間の教育施策の理念と方向性を示すもの

- 変化が激しく、先行きが不透明で、将来の予測が困難な現代においては、一人一人が自ら考え、判断し、責任を持って行動することが重要
- そのため、全ての人たちが生涯にわたって自ら学び続けていくことが必要

➤学習者の概念

群馬県では、教育ビジョンの対象を「学習者」としています。

いわゆる「学校」に通う児童や生徒だけでなく、

大人も子どもも、誰もが同じように「学び続ける者」、すなわち「学習者」です。

➤教育ビジョンの理念、方向性

学習指導要領、生徒指導提要、国の教育振興基本計画には、

OECDのEducation2030プロジェクトやラーニングコンパスの理念が強く反映。

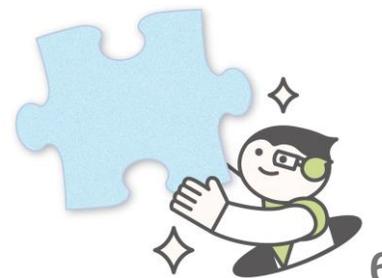
群馬県教育ビジョンは、これらの理念も踏まえ、方向性を同じくするものです。

群馬県教育ビジョンの最上位目標



自分とみんなの**ウェルビーイング**が重なり合い、
高め合う共生社会へ向けて

一人ひとりひとりが**エージェント**を発揮し、
自ら学びをつくり、行動し続ける「**自律した学習者**」の育成



ウェルビーイング (Well-being) とは



文部科学省

2つのコンセプト

持続可能な社会の創り手の育成

- 将来の予測が困難な時代に、未来に向けて自らが社会の創り手となり、持続可能な社会を維持・発展させていく人材を育てる
- 主体性、リーダーシップ、創造力、課題設定・解決能力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成

日本社会に根差したウェルビーイングの向上

- 多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるよう、教育を通じてウェルビーイングを向上
- 幸福感、学校や地域でのつながり、協働性、利他性、多様性への理解、社会貢献意識、自己肯定感、自己実現等を調和的・一体的に育む

ウェルビーイングとは

- 身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。
- 多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念。

日本発・日本社会に根差したウェルビーイングの向上

日本の社会・文化的背景を踏まえ、我が国においては、自己肯定感や自己実現などの獲得的な要素と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの協調的な要素を調和的・一体的に育み、日本社会に根差した「調和と協調」に基づくウェルビーイングを教育を通じて向上させていくことが求められます。

個人が獲得・達成する能力や状態に基づくウェルビーイング (獲得的要素)

- ・自己肯定感
- ・自己実現 など

人とのつながり・関係性に基づくウェルビーイング (協調的要素)

- ・利他性
- ・協働性
- ・社会貢献意識 など

両者を調和ある形で一体的に向上させていくことが重要

国の第4期教育振興基本計画 (教育ビジョン策定に当たり参酌)

コンセプトの1つに 「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」

ウェルビーイングとは

・身体的・精神的・社会的に良い状態であることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含む概念

・多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念。

エージェンシーとは①

OECDラーニング・コンパス (学びの羅針盤)



OECDの定義

- ◆今ある自分の価値を信じ、大切に思えること、他者を自分と同じように認められること
- ◆学習者自身が、自分の人生や周りの世界に対してポジティブな影響を与えうる能力と意志を持っていると信じられること
- ◆自らの意志で、責任をもって選択・決定し、振り返りながら行動を起こせること

Student Agency 生徒エージェンシー

エージェンシーとは②

中教審「令和の日本型教育」答申

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して
～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)【概要】

令和3年1月26日
中央教育審議会

第I部 総論

1. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

● 社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来
● 新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」

新学習指導要領の着実な実施
ICTの活用

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

2. 日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて

成果

- 学校が学習指導のみならず、生徒指導の面でも主要な役割を担い、児童生徒の状況を総合的に把握して教師が指導を行うことで、子どもたちの知・徳・体を一体で育む「日本型学校教育」は、諸外国から高い評価
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、全国的に学校の臨時休業措置が取られたことにより再認識された学校の役割
①学習機会と学力の保障 ②全人的な発達・成長の保障 ③身体的、精神的な健康の保障（安全・安心につながる可以保证の居場所・セーフティネット）

課題

子どもたちの意欲・関心・学習習慣等や、高い意欲や能力をもった教師やそれを支える職員の力により成果を挙げる一方、変化する社会の中で以下の課題に直面

- 本来であれば家庭や地域でなすべきことまでが学校に委ねられることになり、結果として学校及び教師が担うべき業務の範囲が拡大され、その負担が増大
- 子どもたちの多様化（特別支援教育を受ける児童生徒や外国人児童生徒等の増加、貧困、いじめの重大事態や不登校児童生徒数の増加等）
- 生徒の学習意欲の低下
- 教師の長時間勤務による疲弊や教員採用倍率の低下、教師不足の深刻化
- 学習場面におけるデジタルデバイスの使用が低調であるなど、加速度的に進展する情報化への対応の遅れ
- 少子高齢化、人口減少による学校教育の維持とその質の保証に向けた取組の必要性
- 新型コロナウイルス感染症の感染防止策と学校教育活動の両立、今後起こり得る新たな感染症への備えとしての教室環境や指導体制等の整備

教育振興基本計画の理念（自立・協働・創造）の継承 → 学校における働き方改革の推進 → GIGAスクール構想の実現 → 新学習指導要領の着実な実施

必要な改革を躊躇なく進めることで、従来の日本型学校教育を発展させ、「令和の日本型学校教育」を実現

1

一人一人の児童生徒が、**自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要。**

エージェンシーとは③

生徒指導提要

生徒指導提要

令和4年12月

文部科学省

 文部科学省
MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY JAPAN

第1章 生徒指導の基礎

13

(2) 生徒指導の目的

生徒指導の目的は、教育課程の内外を問わず、学校が提供する全ての教育活動の中で児童生徒の人格が尊重され、個性の発見とよさや可能性^[1]の伸長を児童生徒自らが図りながら、多様な社会的資質・能力を獲得し、自らの資質・能力を適切に行使して自己実現を果たすべく、自己の幸福と社会の発展を児童生徒自らが追求することを支えるところに求められます^[2]。

生徒指導の目的

生徒指導は、児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支えることを目的とする。

生徒指導において発達を支えるとは、児童生徒の心理面（自信・自己肯定感等）の発達のみならず、学習面（興味・関心・学習意欲等）、社会面（人間関係・集団適応等）、進路面（進路意識・将来展望等）、健康面（生活習慣・メンタルヘルス等）の発達を含む包括的なものです。

また、生徒指導の目的を達成するためには、児童生徒一人一人が自己指導能力を身に付けることが重要です。児童生徒が、深い自己理解に基づき、「何をしたいのか」、「何をすべきか」、主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を選択・設定して、この目標の達成のため、自発的、自律的、かつ、他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断し、実行する力、すなわち、「自己指導能力」を獲得することが目指されます。

児童生徒は、学校生活における多様な他者との関わり合いや学び合いの経験を通して、

^[1] 「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」中央教育審議会（令和3年）の答申では、令和の日本型学校教育において、児童生徒の個別最適な学びの実現に向けて、児童生徒のよい点や可能性を伸ばし、これまで以上に児童生徒の成長やつまずき、悩み等の理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく支援することが大切であると指摘されている。

^[2] 本書では、児童生徒に対して、①特定の課題を想定しない場合は「支える」若しくは「支持する」、②特定の課題を想定した指導や援助の場合は「指導する」、「援助する」若しくは「指導・援助」、又は③上記の①②を包括的に示す場合は「支援する」と表記する。なお、特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものであることから、13.1においては「指導や支援」という表記を使用している。

自己指導能力

また、生徒指導の目的を達成するためには、児童生徒一人一人が自己指導能力を身に付けることが重要です。児童生徒が、**深い自己理解に基づき、「何をしたいのか」、「何をすべきか」、主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を選択・設定して、この目標の達成のため、自発的、自立的、かつ、他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断し、実行する力、すなわち、「自己指導能力」を獲得することが目指されます。**

エージェンシーとは③

群馬県の定義

1. 自分と他者を尊重した上で、課題を自分事化し、自ら考え、判断して責任ある行動をとろうとする意志の力
2. 多様な価値観の中で、創造的な対話を行おうとする意志の力



分かりやすく伝えるために

リーフレットの キーワード

自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す

✓エージェンシー

- ・・・ 人が誰しも生まれついて持っている
自分と社会をより良くしようと願う意志、原動力

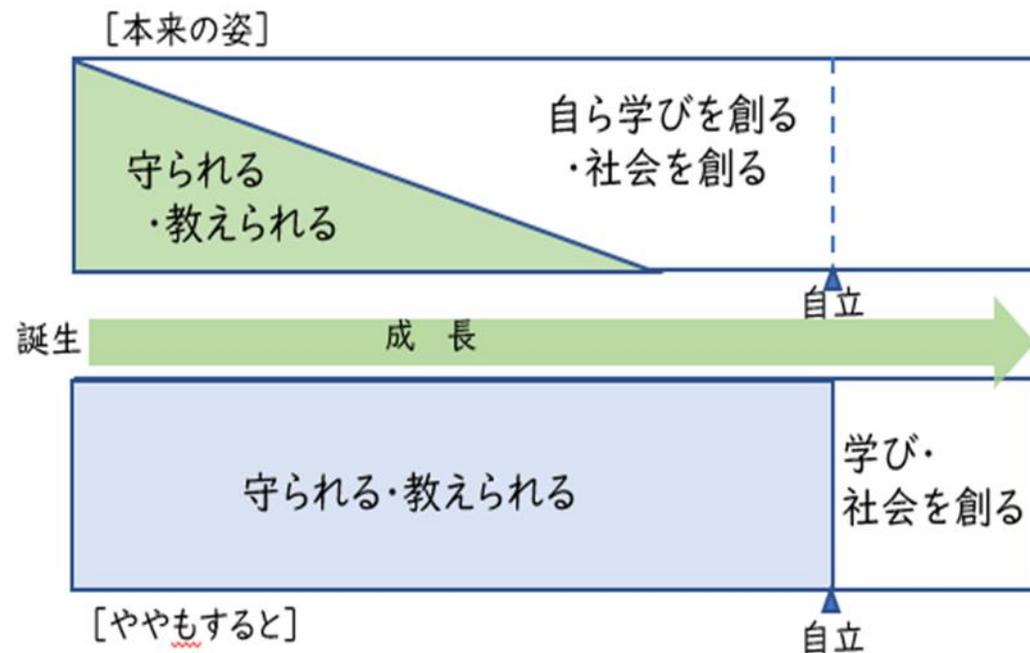


自律した学習者について

◆何が重要かを自ら**主体的に判断**し、問いを立て、

解決を目指していける力を持つ学習者のこと

- ✓ **[本来の姿]**は、子どもの発達段階に応じて、「守られる・教えられる」と、自律して「自ら学びを創る・社会を創る」ことの割合が変わっていき、やがて「自立」に向かう
- ✓ **[ややもすると]**、子どもたちは一貫して「(受け身で) 守られる・教えられる」立場であり続け、卒業する途端に「自立」して、全てを自分で決めることが求められる



◆ **主体性を育むために**

試行錯誤
対話・交流
自己決定

する場面を大切にする



**子どもを信じて
子どもに任せる**

群馬の教育が 目指す学習者像

学習者像①

自らが主語となる学びをつくり、深めていく

- 学習者は自発的に興味や関心に従って学びに向かい、粘り強く取り組む
- 幼児期の「遊びをつくる」ことから学びの原点を理解する
- 学校での学びは教員のサポートを受けながら、自分で興味を深めること

学習者像②

社会課題を自分事化して、行動に移す

- 学習者は社会の形成者として課題を自分事とし、行動力を持つ
- 先行き不透明な時代において、自分で考えて行動する力が求められる

学習者像③

多様性を尊重し、互いに認め合う

- 学習者は異なる他者を知り、違いを認め合い、価値ある存在として相対する
- コミュニケーションと信頼関係が重要

学習者像④

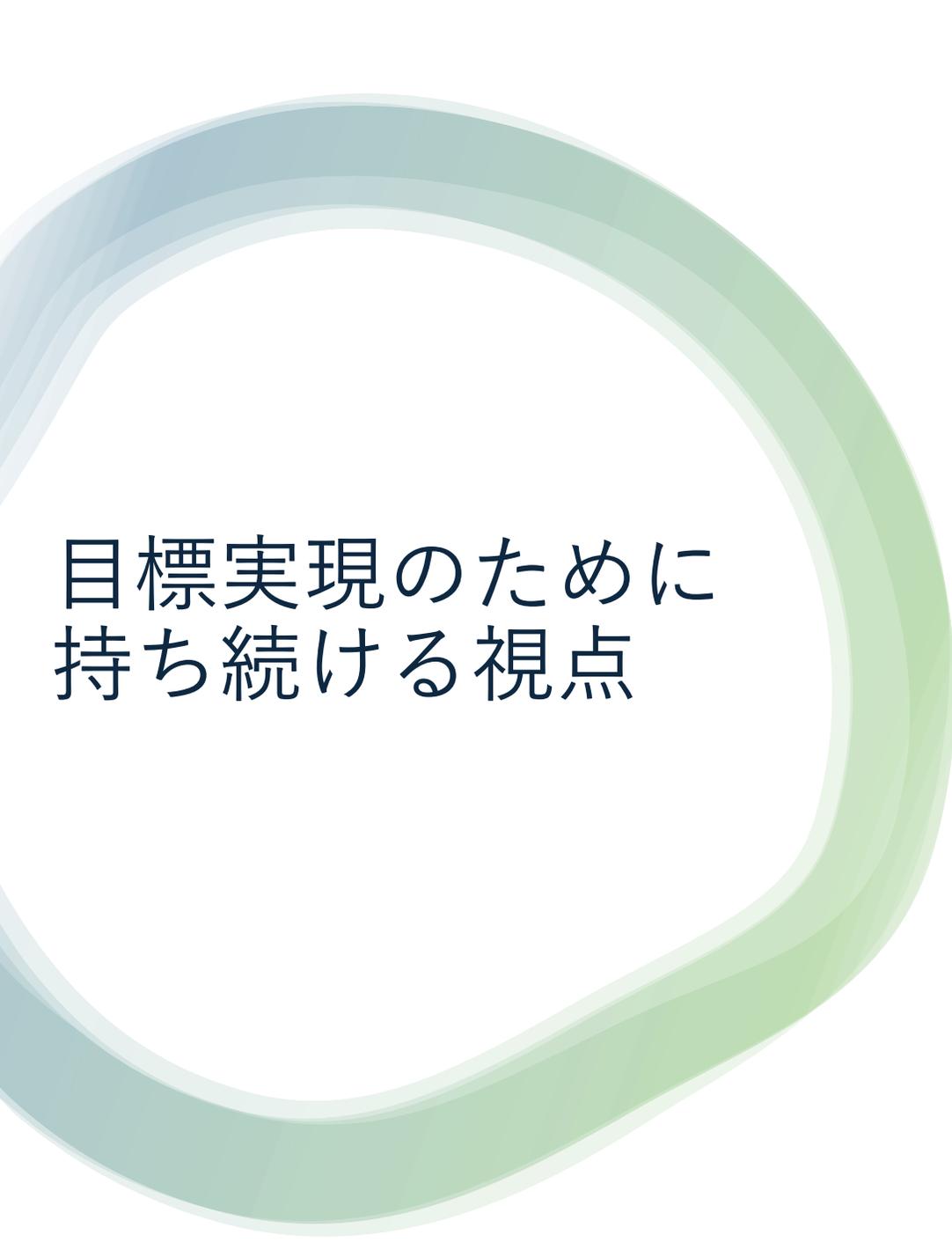
対話と交流により、信頼関係を築いていく

- 学習者同士が対話と交流を通じて信頼関係を築る
- 自律やエージェンシーと両立する対話能力を育む

学習者像⑤

生涯にわたり学び続ける喜びを実感し、共有していく

- 学習者は100歳を超えても学び続け、喜びを感じる
- 学びは学生時代だけでなく、一生涯にわたって重要



目標実現のために 持ち続ける視点

視点① 大人も、子どもも、社会的な“一人の主体”

『より良くしたい気持ちは誰もが持っている。

大人も子どももそれぞれが社会を形成するメンバーだ。』

- ✓ 子どもは一方的に守られ、教えられる存在ではなく、
自発的に社会に影響を与えられる存在
- ✓ 子どもを信じて任せる

視点② 学校で、家庭で、地域で

…自ら学び育つ、共に学び育つ

『学びは学校だけじゃない。

様々なつながりで、様々な場所で、様々な学び合いを。』

- ✓ 従来の「教え、育てる」からの転換
- ✓ 学びは学校だけでなく、日常生活や地域で得られるもの含む
- ✓ 学びによって得た知識や力は、学習者自身の自己実現のためだけでなく、社会課題の解決に向けて発揮されていくべき

まとめ

- ✓教育ビジョンに掲げる理念は、従来から大切にされてきた教育の目標・理念と変わらない
- ✓社会の変化等を踏まえ、以下の2点を強調
 - 1 エージェンシー
 - 人が誰しも生まれついて持っている自分と社会をより良くしようと願う意志、原動力
 - 2 主体性
 - 子どもたちを信じて任せる
- ✓子どもたちが「自己決定」、「試行錯誤」、「対話・交流」する機会を大切に



自分とみんなのウェルビーイングが重なり合い、高め合う共生社会へ